

FRACTALE

2019年3月期 決算説明

FRACTALE株式会社

2019年5月14日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

1. 2019年3月期 決算概要

2019年3月期 決算概要

(単位:百万円)

	2018年3月期		2019年3月期		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
売上高	522	100.0%	1,924	100.0%	1,402	268.6%
営業利益	130	25.0%	293	15.2%	162	124.8%
経常利益	127	24.4%	204	10.6%	76	60.3%
特別利益	354	68.0%	389	20.3%	35	9.9%
関係会社株式売却益	0	0.0%	359	18.7%	359	-
負ののれん発生益	349	67.0%	0	0.0%	-349	-
特別損失	30	5.9%	0	0.0%	-30	-99.6%
税引前利益	451	86.5%	594	30.9%	142	31.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	449	86.2%	592	30.8%	142	31.7%
総資産	5,373	-	7,485	-	2,111	-
純資産	3,075	-	3,600	-	525	-
自己資本比率(%)	57.2	-	48.1	-	-9.1	-
1株当たり純資産(円)	458	-	536	-	78	-

- 売上高は前年比+268%の1,924百万円となり増収
- 営業利益は前年比+124%、経常利益は前年比+60%となり増益

2019年3月期 決算要約

1. 保有不動産の計画的な売却により、増収増益を実現

長野県の軽井沢町に保有する不動産の一部売却により増収増益

2. 不動産保有SPC(特別目的会社)の売却により特別利益359百万円を計上

東京都大田区に不動産を所有する100%子会社の池田不動産(株)の株式売却

3. 高収益不動産の新規取得、ホテル事業の強化により、来期以降の収益 基盤の構築を図る

名古屋栄エリアでの新規不動産取得、箱根仙石原の温泉旅館跡地の新規取得

2. 2020年3月期 業績予想

2020年3月期 業績予想

(単位:百万円)

	2019年3月期		2020年3月期 予想		増減	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	率
売上高	1,924	100.0%	2,800	0.0%	875	45.5%
営業利益	293	15.2%	440	0.0%	146	50.0%
経常利益	204	10.6%	390	0.0%	185	90.8%
特別利益	389	20.3%	0	0.0%	-389	-
関係会社株式売却益	359	18.7%	0	0.0%	-359	-
負ののれん発生益	0	0.0%	0	0.0%	0	-
特別損失	0	0.0%	8	0.0%	8	-
税引前利益	594	30.9%	381	0.0%	-212	-35.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	592	30.8%	380	0.0%	-212	-35.8%

- 売上高は前年比+45%の28億円を計画し、三期連続の増収
- 営業利益は前年比+50%の440百万円、経常利益は前年比+90%の390百万円の増益
- 当期純利益については前年比-35%の380百万円。理由は、前期に関係会社株式売却益による特別利益359百万円が一時的に計上されたことによるもの。

2020年3月期 業績予想のポイント

1. 市場環境に合わせた不動産アセットの売買による増収実現

- (1) 保有不動産の一部入替えによる計画的な売却を実施予定
- (2) 売上高は前年比+45%の28億円、三期連続の増収を計画

2. 営業利益、経常利益の増益。特別利益がなくなるため当期純利益は減益

- (1) 前期に359百万円の一時的な特別利益を計上 → 当期純利益は減益計画
- (2) 営業利益・経常利益は、計画的な不動産売却により大幅な増益計画
(営業利益は前年比+50%の440百万円、経常利益は前年比+90%の390百万円)

3. ホテルビジネスと医療アセット事業の本格的な始動

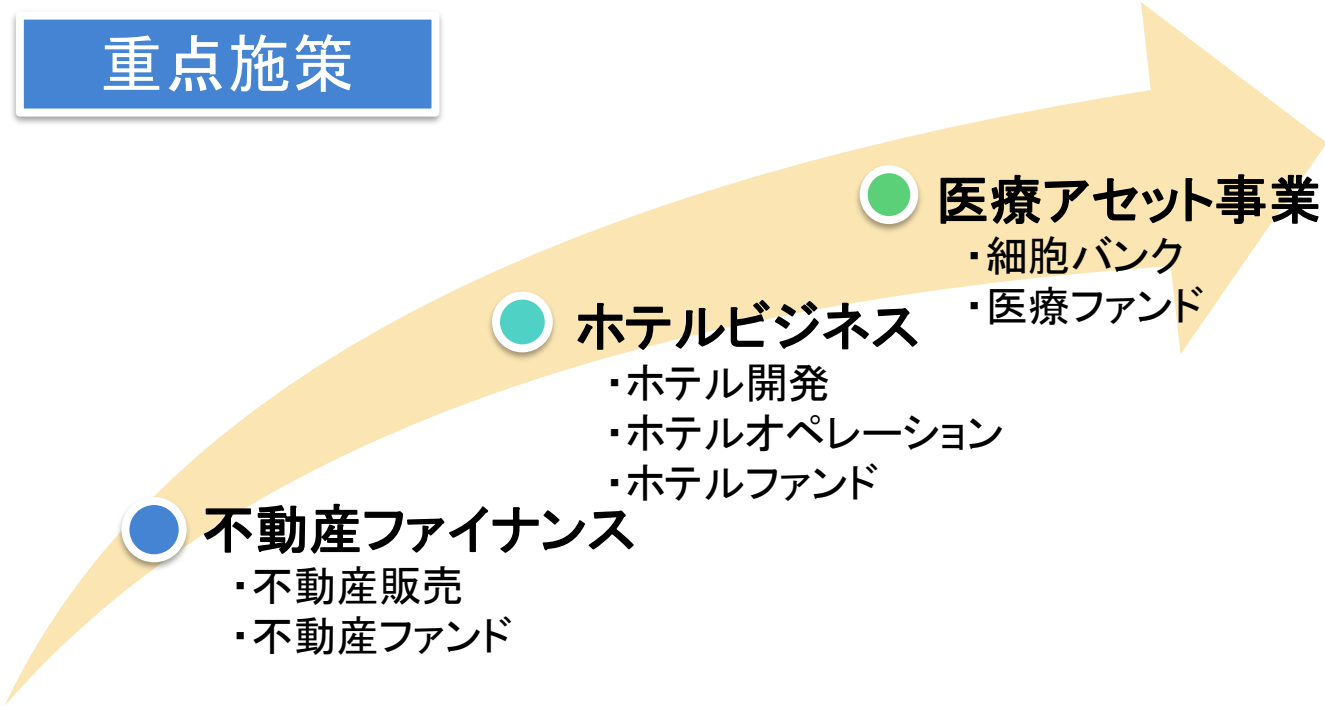
- (1) ホテルオペレーション事業を行う合弁子会社を新規に設立予定
- (2) 子会社であるサイトリ・セラピューティクス(株)で複数の疾患についての臨床試験が順調に進行しており、第Ⅲ相臨床試験の完了、早期の承認申請を目指す

不動産ファイナンスによる増収増益と、ホテルビジネスと医療アセット事業による事業拡大

事業戦略の基本方針

金融(Finance)、不動産(Real Estate)、資産管理(Asset Management)、会社株式(Corporate)を通じて、全てのステークホルダーの方々に最高の価値提供のストーリー(Tale)を作り出し続けるのが、FRACTALEの事業戦略の基本方針

重点施策



重点施策1：不動産ファイナンスの事業拡大

2018年3月期

販売用不動産
21億円

2019年3月期

販売用不動産
55億円

2020年3月期

更なる拡大へ

前年比 +34億円

前年比 +160%



2018年8月に名古屋市中区栄にある
名古屋栄ビルを取得

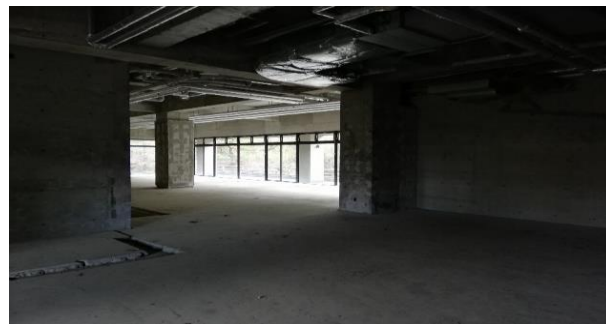


高収益・安定キャッシュフローが
見込める物件

重点施策2： ホテルビジネスの事業創出

- ホテルファンド事業、ホテルオペレーション事業への進出
- 著名な建築家である隈研吾氏とのホテルリノベーション事業の開始

リノベーション前



箱根仙石原にある高級温泉旅館跡



リノベーション後

※イメージ図



2020年5月オープン予定

重点施策3： 医療アセット事業による企業価値向上

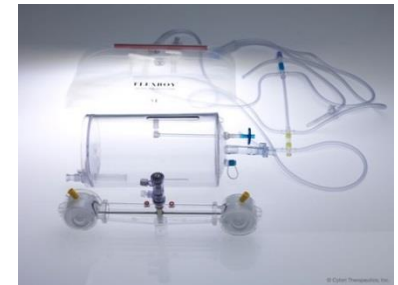
- 米国NASDAQ上場のCytori Therapeutics, Inc.の日本事業をファンド経由で買収、サイトリ・セラピューティクス株式会社を2019年4月に子会社化
- 脂肪組織由来再生(幹)細胞ADRCsを用いた細胞治療の研究や臨床応用を日本国内にて実施、将来の幹細胞バンクの拡大も支援



<取扱製品 (高度管理)医療機器>



セルーション
遠心分離機



セルーション
セルセラピーキット

男性の腹圧性尿失禁は第Ⅲ相臨床試験を日本にて完了、その他複数の臨床試験が進行しております(詳しくは、同社HP <http://www.cytori.jp>)

3. 企業価値の向上に向けて

コーポレートガバナンスの強化に向けた取り組み

より良い企業経営に向けて

改定前

改定後

1. 監督機能の強化

社外取締役による取締役会の
更なる監督強化が望まれる



監査等委員会設置会社へ移行

2018年6月より監査等委員を選任

2. 経営方針の明確化

経営方針のより明確化が望まれる



商号の変更

2018年10月よりFRACTALE(株)へ変更

3. ダイバーシティの強化

外国人役員によるグローバルな
経営視点が望まれる



外国人役員の登用を検討

グループ子会社に外国人役員の
登用を検討中

コーポレートガバナンスの強化に向けた取り組み

企業価値向上に向けて

改定前

改定後

1. 株主還元の強化

(1) 株主還元としての配当を実施していない



2018年3月期より配当を実施

年間配当金10円

(2) 配当方針が定まっていない



**安定した配当を行い、これを
持続させることを基本方針**

2019年3月期は年間配当金20円、
配当性向22%

2. 株主との価値の共有

取締役報酬制度が現金報酬のみ



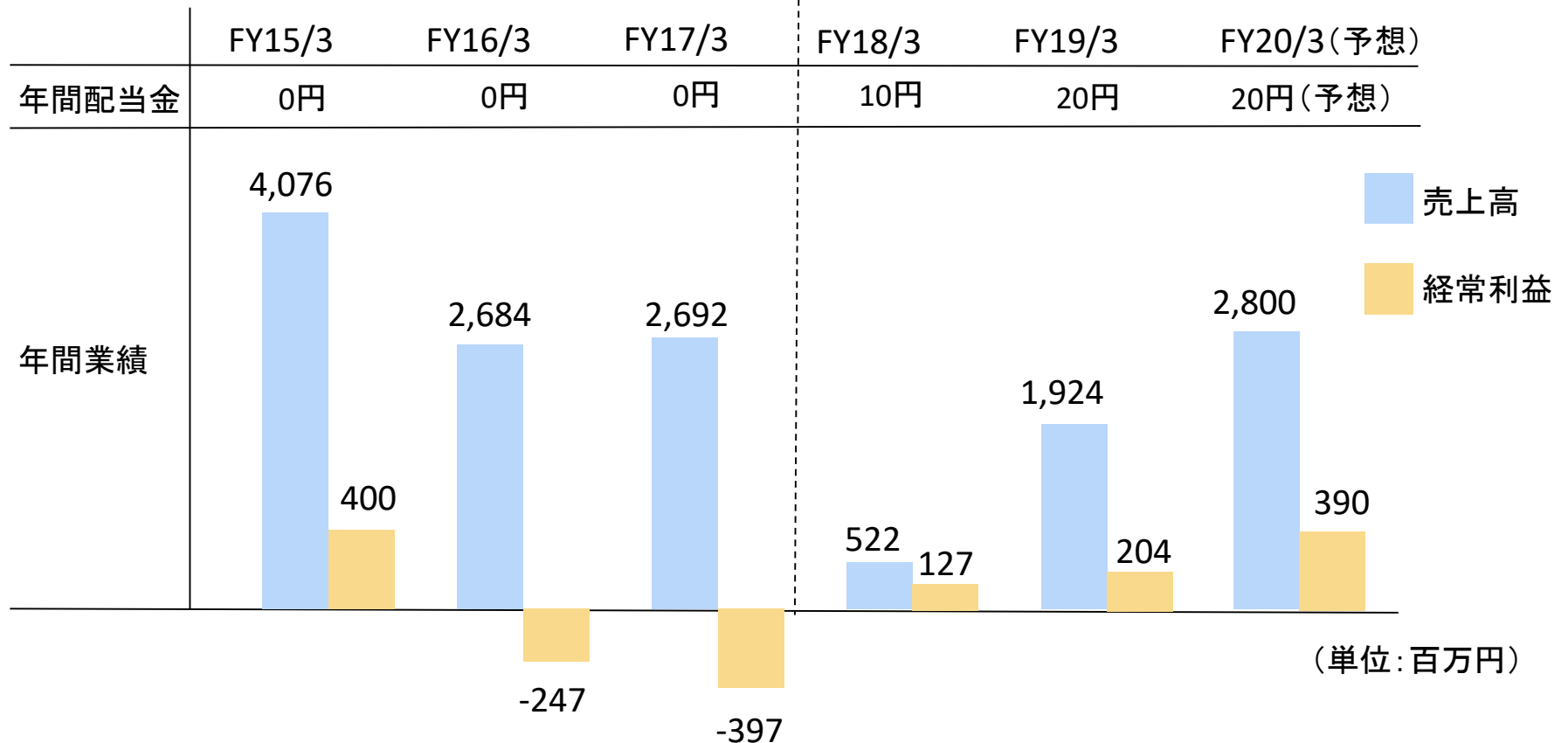
**株式報酬型ストック・オプション
の付与**

2019年6月の定時株主総会に付議予定

業績拡大と株主還元の強化

事業撤退に向けた構造改革

ACA(株)によるTOB後の成長戦略



本資料の取り扱いについて

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査法人による監査を受けていない管理数値が含まれています。
- 本資料の日付以降の事象及び状況の変動があった場合にも、本資料の記述を更新または改訂する予定はありません。